



共に創る掛川
藤澤 恭子

家庭内保育をしている家庭へのサポート制度は

Q 家庭内保育のセーフティネットとして、一時預かり保育専用施設や託児センターなどの設置が急務であるがいかがか。

家庭で保育している方の支援を検討していく

A 一時預かり事業を行っている園は、保育園、認定こども園など8園ですが、保育士不足などから、運営を休止している園もあります。また、待機児童への対応の一つにもなっているため、月初めに予約が埋まってしまうところもあります。このような状況を解消するため、保育士の確保と、待機児童の解消を図るとともに、家庭で保育している方の支援の一つとして、一時預かり事業の充実についても検討していきます。

多文化共生の現状と今後の展望は

Q 今後の外国人人口増加を予測して、現在も課題である外国人児童の教育や、その支援員、通訳の不足をどのように検討するか。

人材発掘やICT機器を活用し対応する

A 市内で外国語が話せる人材を発掘し、国際交流センターに登録してもらいます。通訳等に協力していただくとともに、多言語通訳アプリなど、ICT機器を活用した多言語への対応も考えていきます。



通訳をしながら手続きを手伝うセンターの職員



共に創る掛川
松浦 昌巳

人生100年時代を迎え、さらに生涯学習の推進を

Q 生涯お達者のポイントのひとつに「社会参加」がある。生涯学び人と広く関わるために、市内で活動する団体や個人による10分出前講座をまち協等の総会や同窓会などで推進できないか伺う。

出前講座などの学ぶ機会を検討する

A 人生を豊かにする「教養」をバランスよく身につける手法として、出前講座は有効であると思います。掛川市では、生涯学習や協働によるまちづくりにより多くの学びの場が提供されてきました。今では、素晴らしい活動をされている市民や市民活動団体の方が大勢いるので、まち協などの総会やイベント、会合などで出前講座のような学ぶ機会を増やしていきたいです。

う、マッチングの機会等を検討していきます。

観光戦略、交流人口増加対策を

Q 最初に人間ドックを受けた後、キャンプ、温泉、三城巡り、花鳥園、周恩来元首相と松本亀次郎氏のろう人形見学や、掛川のおいしい料理とお茶を楽しむ一週間の「丸ごと掛川ツアー」を企画できないか伺う。

掛川の地場産業が潤う観光商品を創り上げる

A 旅行関係者や県の観光協会等と協議をしながら、海外の方を含め、多くの方が掛川を訪れ、地場産業が潤うような観光商品の創出を検討してまいります。



周恩来元首相と松本亀次郎氏のろう人形（大東図書館）